

四五月ヨリ秋マデ、田澤蘆荻ノ中ニ居リ、夏ハ竹林中ニ巣ヲ爲ス、數種アリ、形小ナルヲクロドリト云、晝夜鳴ク聲人ノ戸ヲ叩クガ如シ、故ニ和歌ニクヒナノタヽクト讀メリ、源氏物語ニハ、クヒナノウチナキト云、全身淡黒色ニシテ、白文アリテ赤褐毛ヲ雜ユ、翼黒シ、嘴淡黒色、目上ヨリ頬ヲ匝リ、灰赤色ニシテ淡黒横文アリ、毛脛淡黒色ニシテ黑白横文アリ、脚淡黒色ニシテ微赤ナリ、一種オホクヒナハ、形微ク大ニ頸微長シ、故ニツルグヒナ共云フ、嘴細長ク、上ハ灰色下ハ赤シ、脚ハ赤色、高クシテ微大ナリ、内淡黒ニシテ爪赤シ、頭背翅茶褐色、目赤ク郭淡青色、目ノ前後微黒色、目邊及ビ頬淡白色、腹ハ灰色ニシテ淡黒斑アリ、尾短ク灰色ノ斑アリ、胸黃褐色アリ、凡クヒナハ皆形鷄雛ノ已長ジタル者ニ似テ脚長シ、故ニ日本紀ニ水鷄ト云フ、漢名ノ水鷄ハ同名多シ、河間府志ニ、姑丁狀如鷄、又名水鷄ト云ハ、クヒナニ近シ、卓氏藻林ニ、庸渠鳥名似鳥、即今水鷄也ト云ハ詳ナラズ、又蛙ニモ鼈ニモ水鷄ノ名アリ、一種子ズミグヒナハ、形小クシテ雀ノ如シ、毛茶褐色ニシテ黒斑アリ、人ヲ見レバ遁レ隠ル、故ニ子ズミグヒナト名ク、此外ヤブクヒナ、ヤブチヤクヒナ、チゴクヒナ、紺クヒナ一名アカクヒナ、ヒメクヒナノ類尙多シ、

〔食物和歌本草四〕<sup>クヰナ</sup>水鷄

くゐな寒甘く毒なし脾胃を損じかはきの病泄瀉よくとむ　くゐなこそ久しき痢病赤白のとなりかぬるに奇特成けり　くゐなをば黒やきにして常にのみ淋病うみのやまとざるに吉

〔古今和歌六帖六〕<sup>クヰナ</sup>くひな

水鷄だにた、けば明る夏のよを心みじかき人やかへりし

〔源氏物語十三〕<sup>明石</sup>はるぐともの、とこほりなきうみづらなるに、中々春秋の花紅葉のさかりなるよりは、たゞそこはかどなう忘げれるかげどもなまめかしきにくゐなのうちた、きたる